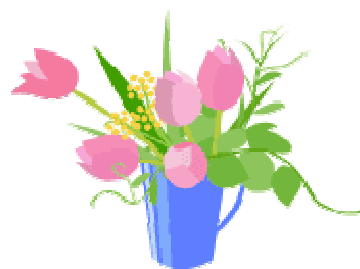


8. 緊急事態宣言解除後 の内視鏡検査診療



緊急性のない内視鏡検査 は延期すべきか

- 長期にわたる検査の休止は患者や検診者に重大な不利益を生む可能性は否定できない。
- 適切なトリアージと確実な感染防護柵の実施する事が可能であれば再開を検討する

→具体的には・・・内視鏡検査予定日の2週間以内　　は3
密になる行動を避ける。一日の検査数を少なく設定し段
階的に増やしていくなど

消化器内視鏡検査で 留意するべき点

再開にあたっては引き続き感染防護策を徹底し
緊張感をもって内視鏡診療を実施する必要がある。

受診者、ならびにスタッフに対する問診と体温
測定は継続して行う。

感染者や濃厚接触者 に対する内視鏡診察で 留意すべき点

- 感染者との濃厚接触者は、14日間の自宅待機を経て臨床症状に問題がなければ、感染低リスクと判断して内視鏡検査可能と判断する。
- 治癒判断後から内視鏡施SARS-CoV-2感染が確認された有症状者でも、発生日から10日間が経過し、かつ症状軽快後72時間経過した場合、あるいは10日間が経過していない場合でも、症状が軽快して24時間後にPCR等検査を実施し、陰性が確認されたら、1回目の検体採取後の24時間後に再度PCR等検査を行い、2回連続で陰性が確認された場合は、治癒していると考えて通常内視鏡検査も施行可能である。
- 治癒判断後から内視鏡施行までの健康チェックおよび当日の問診や体温測定は必須である。

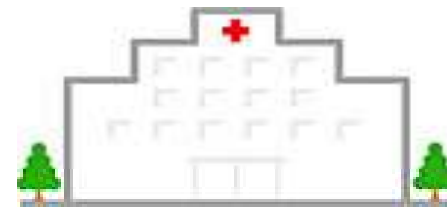
パンデミック時の消化器内視鏡診療について

- 内視鏡実施施設においては、ある程度のPPEの備蓄が必要。
- 手指や内視鏡室の消毒薬の確保。
- 感染対策規則の周知徹底、スタッフへの教育。
- 長期的には、通常の内視鏡診療体制が、あらゆる感染症に対応できる体制になることが理想である。

9. その他

経験の浅い内視鏡医が行う検査について

- 感染確定患者に対しては介助者も含めて十分経験を積んだ上級医が行うことを推奨。
- 感染疑い患者に対しては、検査時間が長くなる状況においては上級者への術者交代を検討する必要がある。



全例検査で感染防護具 が必要か？

- 手袋は症例毎に交換。手袋の交換時には十分な手指洗いが必要。
- ガウンは、毎回交換が好ましい。
- マスク、フェスシールド、キャップ、シューカバーは、汚染およびその可能性がある場合、感染疑いや確実例への検査後には必ず交換する。
- PPEの確保は、消化器内視鏡診療を行う条件である。

N95マスクの再利用について

- 本来は使い捨てが望ましい。
- 滅菌して対応する方法：過酸化水素プラズマ滅菌を使用してN95を滅菌する。（滅菌は2回まで）
- 5枚確保してローテーションで使う方法：N95マスクを1人につき5枚配布するとともに、使用したものを通気性のようなきれいなバックに保管し、毎日取り換えて5日間のサイクルで使用方法

防護服不足に対する 工夫について

- フェスシールドは1症例ごとにアルコールで清拭するなど一つの対策である。中性洗剤で洗うことで再利用できる。
- A4のクリアファイルと3Dプリンタを用いたフェスガードを自作する方法
- マスクの消毒による再利用は推奨しない

経鼻内視鏡と経口内視鏡 の感染リスク

- 必ずしも経鼻内視鏡が感染リスクが低いわけではない。
- 経鼻、経口いずれにおいても感染のリスクがあることを十分認識する。適切な防護策をとる必要がある。



消化器内視鏡施行時の 飛沫対策

- 消化器内視鏡診療にあたっては、内視鏡挿入部からの飛沫拡散への対策が重要。
- ①サージカルマスクに内視鏡スコープが通過できるような切込みを入れて、マウスピースの上から患者さんにつけてもらう方法。
- ②マウスピースに飛沫防止のためのシートをつける方法。
- ③密閉性のある麻酔用マスクのようなものに内視鏡が通過できるような穴をあける方法。
- 各々の方法がどの程度の飛沫防止効果があるのか、そしてどの方法が優れているか等についての十分な検証は出来ていない。
- 室内換気については十分に配慮する必要がある。

消化器内視鏡診療前に SARS－COV－2検査は 必要か

- 現時点では前例に実施を推奨するかは一定の見解はない。
- ただしESDやERCP等の治療内視鏡で検査時間が長く鳴る場合は可能であればPCR検査や抗原検査でSARS-COV－2感染状況を調べる事を考慮する。

院外からの見学、研修 内視鏡診療の応援

- 院外からの医師やコメディカルスタッフの見学や研修を受け入れる施設においては、院内の関係部署と相談し受け入れの可否を決定。
- 他施設からの消化器内視鏡診療の応援を依頼する場合には、医療従事者が感染源とならないように、個人の感染対策を徹底するとともに、依頼元と依頼先の施設の間で十分に協議する必要がある。

ワクチンの接種後の感染対策について

- 感染対策は継続し、引き続き緊張感を持って内視鏡検査を行う必要がある。

